



令和 8 年 5 月 13 日
総合政策局国際政策課

国際交通フォーラム（ITF）交通大臣会合 2026 が開催されました

5月6日（水）～5月8日（金）、ドイツ・ライプチヒで、ITF 交通大臣会合 2026 が開催され、「レジリエントな交通への資金供給」をテーマに議論を行いました。

日本からは、金子国土交通大臣が首席代表として5月7日の会合に出席し、日本が2028年から2029年にかけてITFの議長国を務めることが決定しました。

このほか、国土交通省幹部等や民間企業経営者が大臣ラウンドテーブル、議長国セッション等に登壇し、官民で日本の取組を発信しました。

1. 日 程 : 令和8年5月6日（水）～5月8日（金）
2. 場 所 : ドイツ・ライプチヒ市
3. テーマ : レジリエントな交通への資金供給
4. 首席代表 : 国土交通省 金子国土交通大臣
5. 主なプログラム :
大臣理事会、公開大臣会合、
大臣ラウンドテーブル、議長国セッション等
6. 結果概要 : 別紙のとおり

※国際交通フォーラム（International Transport Forum：ITF）は、OECD傘下の国際機関で、72か国が加盟しており、陸・海・空のすべてのモードにわたる交通政策について、議論や調査研究を行っています。毎年5月、ドイツのライプチヒにて、全加盟国が参加する大臣級会合が開催されています。

【お問い合わせ先】

総合政策局 国際政策課：原口、田中、中谷

TEL：03-5253-8111（内線25754） / 直通：03-5253-8319

会議の概要

(1) 交通大臣理事会

令和8年5月7日、ドイツ・ライプチヒにおいて、金子国土交通大臣は、ITF の交通大臣理事会に出席しました。

会合では、日本が2028年から2029年にかけてITFの議長国を務めることが決定され、金子国土交通大臣から、加盟国やITFと緊密に連携し、しっかりと取り組んでいく旨を述べました。



(発言する金子国土交通大臣)



(交通大臣理事会の様子)

(2) 公開大臣会合

ITFの公開大臣会合では、「レジリエントな交通への資金供給」をテーマに、加盟国の交通大臣、国際機関代表、民間企業経営者等による議論が行われました。金子国土交通大臣から、サプライチェーンの混乱や災害の激甚化・頻発化が社会経済に大きな影響を与える中で、官民が連携してレジリエントな交通の実現に向けて取り組むことが重要であるという日本の考え方を発信しました。

また、成田国際空港株式会社の藤井直樹代表取締役社長が基調講演を行い、交通インフラに対する効果的な投資を図るためのガバナンス、財源確保、関係者との協力のあり方について、同社の取組や日本の交通政策を交えながら訴えました。



(発言する金子国土交通大臣)



(藤井代表取締役社長基調講演)

(3) 他国の交通大臣等との意見交換

金子国土交通大臣は、ITF 交通大臣会合に合わせて以下の要人と意見交換を行い、ITF の活動における協力や交通・インフラ分野における連携を深めていくことを確認しました。

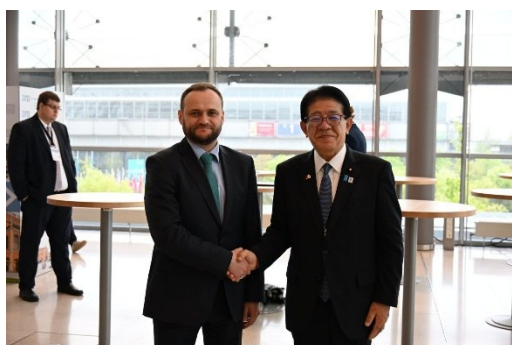
- ① ドイツ パトリック・シュニーダー連邦共和国運輸大臣
- ② チェコ イヴァン・ベドナーリク運輸大臣
- ③ ウクライナ オレクシー・クレーバ復興担当副首相兼地方・国土発展大臣
- ④ アゼルバイジャン ラシヤド・ナビエフ デジタル開発・交通大臣
- ⑤ トルコ アブドゥルカディル・ウラルオール 運輸インフラ大臣
- ⑥ ITF キム・ヨンテ事務局長



①ドイツ・シュニーダー大臣



②チェコ・ベドナーリク大臣



③ウクライナ・クレーバ副首相



④アゼルバイジャン・ナビエフ大臣



⑤トルコ・ウラルオール大臣



⑥ITF・キム事務局長



(ファミリーフォト)

(4) 大臣ラウンドテーブル

「サプライチェーンへの戦略的投資」、「交通レジリエンスのためのAIの運営」、「ビジョン主導の交通計画への移行」をテーマとした3つの大臣ラウンドテーブルが開催され、日本から以下の通り対応しました。

① 「サプライチェーンへの戦略的投資：代替ルートと回廊の強化 (Strategic Investment in Supply Chains: Strengthening Alternative Routes and Corridors)」

日本からは、国土交通省鶴田浩久総合政策局長が出席し、サプライチェーン強靱化が経済安全保障の観点からも課題であること、港湾やシーレーン上の船舶修繕拠点等に官民連携して投資を行うことが重要であること、デジタル化やサイバーセキュリティなどソフトインフラへの投資も不可欠であることなどについて発言しました。



(参加者)



(会合の様子)

② 「交通レジリエンスのためのAIの運営:ガバナンスと資金調達経路 (Steering AI for Transport Resilience: Governance and Funding Pathways)」

日本からは、成田国際空港株式会社藤井直樹代表取締役社長が出席し、空港運営の最適化、利用者の利便性の向上、人手不足への対応にAIの活用が有益であることや、成果を創出するための複数の主体間における協働の重要性などについて発言しました。



(参加者)



(会合の様子)

③ 「ビジョン主導の交通計画への移行:課題と機会 (Shift Towards Vision-led Transport Planning: Challenges and Opportunities)」

日本からは、首都圏新都市鉄道株式会社渡邊良代表取締役社長が出席し、同社が運行するつくばエクスプレス線沿線における、特別な法制度の下での国や地方自治体などによる鉄道建設と宅地開発の一体的推進の成果や、駅周辺の開発の成功事例を広げていくための自治体、民間事業者、鉄道事業者などによる連携の必要性について発言しました。



(発言する渡邊代表取締役社長)



(会合の様子)

(5) 議長国セッション

議長国アゼルバイジャンは「議長国セッション」を主催し、「中央回廊：レジリエントで競争力があり、未来志向のユーラシア連結性への戦略的投資 (The Middle Corridor: Strategic Investment in Resilient, Competitive and Future-Ready Eurasian Connectivity)」をテーマに議論が行われました。

日本からは、国土交通省鶴田浩久総合政策局長が登壇し、中央アジア・コーカサス地域は欧州と東アジア地域との連結性の要であり大きな戦略的意義を有していること、中央回廊カスピ海ルートの開発に関する官民連携した取組（実証輸送、ビジネスツアー）を行っていること、関係国等との連携が重要であること等について講演しました。また、議長国アゼルバイジャン副大臣、OECD 担当らとパネルディスカッションに参加し、中央回廊が有するポテンシャルについて議論を行いました。

<登壇者>

・開会挨拶

ラフマン・フンマトフ	アゼルバイジャン デジタル開発・運輸省 副大臣
キム・ヨンテ	ITF 事務局長

・パネルディスカッション（戦略的重要性と経済的影響）

鶴田浩久	国土交通省総合政策局長
ラフマン・フンマトフ	アゼルバイジャン デジタル開発・運輸省 副大臣
ウィリアム・トンプソン	OECD ユーラシア部長

・パネルディスカッション（資金調達とレジリエンス）

岩崎秀明	アジア開発銀行 局長
シヨミク・メインディラッタ	世界銀行 欧州・中央アジア運輸部門マネージャー



(鶴田局長講演)



(パネルディスカッション)



(パネルディスカッションの様子 左：鶴田局長 右：フンマトフ副大臣)

(6) オープンステージカフェ等の主催等

- ① オープンステージカフェ「鉄道と地域：地域との連携が形づくる、より良い大都市圏 (Railways and Regions: How Collaboration with Communities Shapes Better Metropolitan Areas)」の主催
国土交通省は、オープンステージカフェを主催し、鉄道への投資と地域づくりをテーマに議論が行われました。

日本からは、首都圏新都市鉄道株式会社の渡邊良代表取締役社長が登壇し、つくばエクスプレス为例として、駅や沿線地域で生まれた変化、鉄道と沿線自治体などの連携による地域づくりについて、流山おおたかの森駅、柏の葉キャンパス駅、つくば駅での優良事例を交えて発言しました。また、フランスからは、ブノワ局長が登壇し、グランパリエクスプレスの取組紹介が行われました。これらを踏まえ、荒木室長から鉄道と地域との連携による効果、都市圏のビジョンと鉄道への投資とを結びつけながら、駅を起点とした地域の暮らしや魅力の創造を図ることの重要性等について、発言しました。

<登壇者>

- ・ 基調講演、パネリスト

渡邊 良

首都圏新都市鉄道株式会社 代表取締役社長

ブノワ・ルボ

フランス運輸省欧州・国際関係局長

- ・ 開会・閉会挨拶、モデレーター

荒木 愛美子

国土交通省総合政策局インフラシステム海外展開戦略室長



(イベントの様子)



(発言する渡邊代表取締役社長)



(発言するブノワ局長)



(発言する荒木室長)

② サイドイベント「中央回廊とサプライチェーンへの投資を可能にする保険 (Insurance to Unlock Investment for Resilient Transport Corridors and Supply Chains)」の共催

国土交通省は、他団体とともに、中央回廊とサプライチェーンへの投資を可能にする保険に関するサイドイベントを共催しました。

日本からは、国土交通省牧野国際物流室長が登場し、オープニングで中央回廊のサプライチェーン強化のための金融や保険の必要性について発言しました。株式会社日新アッセム副所長からは、関係者間での物流に関する情報収集・共有の重要性や、保険等のリスク軽減によるサプライチェーンの信頼性向上や強靱化について発言しました。その後のグループディスカッションでは国土交通省荒木室長がテーブルモデレーターを行い、関係者間における今後の対応について議論を行いました。

<登壇者>

・開会挨拶

牧野武人 国土交通省 物流・自動車局長 国際物流室長
アッセム・セギズバエワ 株式会社日新 アルマティ事務所 副所長

・パネルセッション

サーシャ・ジョーンズ チューリッヒ・レジリエンス・ソリューションズ
グローバル公共セクター・ソリューションズ責任者
ジェイミー・レザー アジア開発銀行 (ADB) 運輸セクター・グループ ディレクター
ゴンサロ・アルカラス 国際道路連盟 (IRF) 事務総長
マーク・メジャー クーネ・クライメート・センター シニア戦略ディレクター
ニコレット・ファン・デル・ヤフト CLECAT 事務局長



(発言する牧野室長)



(発言するセギズバエワ副所長)



(イベントの様子)

(7) その他イベントへの参加等

- ① サイドイベント「地域間格差をつなぐ：農村・山間地域におけるレジリエントなモビリティのためのグローバル戦略— マシフ・セントラルの事例から学ぶ — (Bridging the Gap: Global Strategies for Resilient Mobility in Rural and Mountain Regions – Learning from the Massif Central Case)」への参加

フランス等が主催するサイドイベントに、国土交通省から山本国際交通特別交渉官が参加しました。日本の交通の特徴、農村・山間地域におけるモビリティの維持をテーマに発言しました。また、パネルセッションでは、今後の同地域におけるモビリティの確保について、知見を共有しました。



(イベントの様子)



(発言する山本国際交通特別交渉官)

- ② オープンステージカフェ「ジェンダーの視点によるレジリエントな交通システムの構築 (Building Resilient Transport Systems Through a Gender Lens)」への参加

ITF等が主催するオープンステージカフェに、国土交通省から国際政策課原口国際交渉官が参加し、災害時におけるレジリエンスの向上について、交通とジェンダーの観点から日本の取組を紹介しました。



(イベントの様子)



(発言する原口国際交渉官)

- ③ サイドイベント「交通分野における女性リーダーと若手の活躍 (Women Leaders and Rising Talents in Transport)」への参加

ドイツ等が主催するサイドイベントに、国土交通省から国際政策課田中係員・中谷係員が参加し、交通分野における女性のキャリア形成をテーマに、他の参加者と意見交換を行いました。



(イベントの様子)